学校番号	3033

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	(学)数学特講	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「数学Ｃ」（数研出版）						
副教材等	（S コース）「新課程　チャート式　基礎からの数学Ⅲ＋Ｃ」　（数研出版） （S コース）「新課程　教科書傍用　サクシード　数学Ⅲ＋Ｃ」（数研出版） （L コース）「新課程　チャート式　基礎からの数学Ｃ」　（数研出版） （L コース）「新課程　教科書傍用　サクシード　数学Ｃ」（数研出版） 問題演習用副読本（未定）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学の学習の定着には、定義の確たる理解が最も重要なのはいうまでもありませんが、その深い内容まで時間をかけて学び、思考し、時間をかけて問題に取り組むことが大切です。選択いただいたみなさんには、2 次曲線、複素数平面という数学的にも興味深い、広がりを持った分野を中心に、この授業でそのような時間を確保していただきたいと思います。当然のことながら授業については相当に高度な内容まで含みますので、授業をしっかりとフォローすることにより、難関大学の入試にも十分に対応できます。昨年度に引き続き、復習の時間をしっかりと確保してください。また、学習の方法に悩んだときは「合格者の手引」に立ち戻り、自身の学習について見つめなおしてみてください。
その後は入試問題集を使用し、複雑な問題に相対することで数学の学習の定着をめざします。こちらは入試問題を扱いますので、行き詰ることが多いかもしれません。そこで大切にしていただきたいのは、これまで培ってきた基礎部分にいつでも立ち戻ることです。理解が足りないと感じたとき、論理についていけないことがあったとき、必ず過去の学習内容に立ち戻り、時間をかけて再度理解を深めてください。本授業がみなさんの数学の営みを深めるものとなることを期待します。

2　学習の到達目標

2 次曲線、複素数平面を中心とした分野の学習および、入試問題演習を通して
【知識及び技能】
基礎的な知識の確固たる定着とその知識を発展的内容につなげる技能の習熟をはかる。
【思考力、判断力、表現力等】
高度に抽象化された事象を表現し伝える能力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学的対象に興味関心をもち、自らの力によって積極的に活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	2 次曲線･複素数平面を中心にした分野について、基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	2 次曲線・複素数平面を中心にした分野について、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	2 次曲線・複素数平面を中心にした分野について、その考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期第1中間	複素数平面	複素数平面 極形式	複素数および三角関数を組み合わせることにより、極形式およびそれに付随する定理が得られること、複素数の演算が図形的な意味を持つことについて、演習などを活用することにより、 a:理解している。 b:過程を考察することができる。 c:興味・関心を持ち、一般化したり具体的な問題に利用したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
前期第1中間	複素数平面	複素数と図形	複素数の演算を活用することにより、回転などをうまく用いて図形が議論できることを、演習などを活用することにより、 a:理解している。 b:過程を考察することができる。 c:興味・関心を持ち、一般化したり具体的な問題に利用したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
前期期末	式と曲線	2 次曲線の性質	放物線・楕円・双曲線を通して、2 次曲線が持つ性質や、曲線一般に言える平行移動などの概念について、演習などを活用することにより、 a:理解している。 b:過程を考察することができる。 c:興味・関心を持ち、一般化したり具体的な問題に利用したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
後期中間	式と曲線	曲線の媒介変数表示	放物線・楕円・双曲線および三角関数を組み合わせることにより、曲線の媒介変数を用いた表示などについて、演習などを活用することにより、 a:理解している。 b:過程を考察することができる。 c:興味・関心を持ち、一般化したり具体的な問題に利用したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
後期期末	問題演習など	分野横断的な学習	入試問題の演習などを活用することにより、分野横断的に扱われる既習分野をを深めた内容について、 a:理解している。 b:過程を考察することができる。 c:興味・関心を持ち、一般化したり具体的な問題に利用したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度